

キャラクター名
藤田 誠真(ふじた せいま)

プレイヤー名

シンドローム エンジェルハイロウモルフェウス
ワークス UGNエージェントB カヴァー 高校生
オプション 年齢 18 性別 男
覚醒 感染 衝動 嫌悪 初期侵食率 29%
出自 父親不在 経験 逃走 邂逅 友人

基本値 ワークス ボーナス 成長 他修正 能力値 HP 23
肉體 1 0 0 行動値 17
感覚 5 1 0 2 8 (非装備時)
精神 1 0 0 戦闘移動 22
社会 1 0 0 1 全力移動 44

肉體 感覚 精神 社会
技能 SL 修正 技能 SL 修正 技能 SL 修正 技能 SL 修正
白兵 射撃 8 RC 1 交渉
回避 知覚 1 意志 調達 2
運転: 芸術: 知識: 情報: UGN 1

武器・コンボ 能力 命中値 G値 攻撃力 射程 メモ
ハンドレットガンズLv5 射撃 8r+8 0 9(Lv+4)
射撃 6r+8 +37 コンセントレイトLv2+小さな塵Lv5+スピットファイアLv3+見えざる死神Lv3+ペネトレイト+死点撃ちLv3
射撃 5r+8 +28 コンセントレイトLv2+小さな塵Lv5+スピットファイアLv3+ペネトレイト+死点撃ちLv3
0

防具 価格 装甲 回避 行動 メモ

所持品

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス
対象 感情(pos) 感情(neg) タイム消費
対抗種 P N
友人 P N 無関心
好井 蜜羽[みつはちゃん] P 誠意 N 猜疑心
物部 静名(もののべ しずな) [しずなちゃん] P 親近感 N 恐怖
千代神 彩音(ちよがみ さいね) [さいねちゃん] P 連帯感 N 不快感
柚上 伶音(ゆがみ れおん) [れおん] P 連帯感 N 不信任
ヨミ[よみさん] P 感服 N 嫌悪

最大財産P: 6 残り財産P: 0

スキル名 SL コスト タイミング 射程 対象 判定 制限 メモ
ワーディング ★ - オート 視界 シーン 自動 -
効果: 非オーヴァードのエキストラ化
リザレクト 0 1d10 気絶時 - 自身 自動 ↓100
効果: コスト分のHPで復活
コンセントレイト 2 2 メジャー - - エンジェルハイロウ -
効果: C値-Lv
小さな塵 5 2 メジャー 武器 - <射撃> -
効果: 攻撃力+[Lv:2]
スピットファイア 3 3 メジャー 武器 単体 <射撃> 小さな塵
効果: 攻撃力+[Lv*3] / ダイス-2個
見えざる死神 3 2 メジャー 武器 - <白兵><射撃> -
効果: 隠密状態→(ダイス+1 / 攻撃力+[Lv:3])
ペネトレイト 1 3 メジャー 武器 - <白兵><射撃> -
効果: 装甲値無視 / ダイス-1個
死点撃ち 3 3 メジャー 武器 単体 <白兵><射撃> -
効果: 装甲無視→攻撃力+[Lv*3]
ワンショットツークル 2 3 メジャー 武器 2体 対決 -
効果: 対象→2体 / Lv回/1シナリオ
ハンドレットガンズ 5 3 マイナー 至近 自身 自動 -
効果: 武器作成
陽炎の衣 3 3 マイナー 至近 自身 自動 -
効果: 隠密状態 / Lv回/1シーン
見放されし地 ★ - メジャー 視界 効果参照 自動 -
効果: すべての光が遮断された空間を作り出す
雑踏の王 ★ - メジャー 至近 自身 自動 -
効果: 周囲の存在の動きを俯瞰的に把握、予測することができる

HO1(非オーヴァード) 生き残りの一般人
カヴァー/ワークス 高校生/なし
貴方は半年前の大災害を生き残った一人である。
現在は地震の後、新しく編成された「早乙女学院」へ通っている学生だ。
今日から転校生がやってくると聞いているが、こんな街にわざわざ転校してくるとは、どんな変わり者なのだろう。
少しの期待と不安を感じながら、貴方は扉が開くのを待つ。
ロイス「転校生」好奇心/自由

明るい雰囲気普通の高校生。現在も地震の傷跡が大きく残るこの状況でも明るく振舞っている。
両親が離婚しているため、警察官である父親は別居しており、現在は母親と二人で暮らしている。

中学生の頃は両親の離婚が原因でだいぶ荒んでいた。学校にバレこそはしなかったものの喫煙や飲酒、万引きなどにも手を出していた。そんな彼に対して優しく接してくれる友人が一人いた(友人が誠真の悪事に気づいていたかは不明)。一匹狼を気取ろうとする誠真を避けることなく接してくれる彼に、感謝の気持ちを抱きつつもどこか劣等感と猜疑心を感じていた。どうせこいつも俺を哀れんで付き合ってるだけなのだと
そんなある日、友人と一緒に道を歩いていた際、逃走中であった連続殺人犯に捕まり、殺されかける。その時、突如友人は"炎を出して"殺人犯を殺した。今となっても原理はわからない。もしかしたらライターでも持っていたのかも知らない。誠真は自分を殺そうとした殺人犯よりも、自分を助けた友人に対して恐怖心を感じた。恐怖心は今まで密かに抱いていた猜疑心を増長させた。今となれば、友人が誠真を助けてくれたということは火を見るより明らかであると、誠真自身もわかっている。
しかし結果的に誠真は友人を悪人に仕立てることで被害者は自分ひとりであることにした。無事殺人犯の殺害事件に巻き込まれた一被害者となった彼は、周囲から聞こえる様々な自身に関する根も葉もない噂話、何も知らないくせに自分を咎めてきた父親、大手メディアが去った後も時々現れる地元メディア、その全てが